



はんだ山の風



地震防災訓練 (2012.10.16)



消防訓練 (2012.11.20)

Contents

- P.2 新年のご挨拶 病院長 瀧川 雅浩
- P.2 地震防災訓練が実施されました 医事課
- P.3 新任医師の紹介 小児科学 准教授 小児科 副科長 福田 冬季子
- P.3 消防訓練が実施されました 医事課
- P.4 シリーズ最先端医療「最新の角膜内皮移植について」
眼科 病院准教授 浅井 竜彦
- P.5 病気 ここが知りたい 麻酔・蘇生学講座 助教 谷口 美づき
「带状疱疹と带状疱疹後神経痛」 教授 佐藤 重仁
- P.6 ポットマムが贈呈されました 医事課
- P.6 市民公開講座「ここまで進んだウイルス肝炎治療」が行われました 医事課
- P.7 「保険診療講演会」が行われました 医事課
- P.7 講演会「クリニカルパスの電子化の手順」が行われました 医事課
- P.7 「医療安全講演会」が行われました 医事課
- P.8 ハッピードールプロジェクトが浜松にやってきた 医事課
- P.8 クリスマスイルミネーションを実施しました 施設課
- P.8 図書室が移転し業務を再開しました 医事課



浜松医科大学医学部附属病院 常勤・パート看護師募集

お問い合わせ

- 人事課任用係 TEL.053(435)2117
- 看護部事務室 TEL.053(435)2627

病院の理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を養成する。

基本方針

- 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
- 社会・地域医療への貢献
- 良質な医療人の育成
- 高度な医療の追求
- 健全な病院運営の確立



新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。本年も何とぞ宜しく願い申し上げます。

浜松医科大学医学部附属病院では、「患者さんへの最良の医療の提供」を強く心がけて診療を行っております。最良の医療とは高度で安全な医療であり、提供にあたっては医療の内容を丁寧に、分かりやすく説明していくことが大切です。患者さんには、治療を受けてよかった、という満足感を感じていただきたく、本年も努力する所存です。

平成24年度から、静岡県地域医療再生計画の一環として、静岡県からご支援をいただき、地域周産期医療学講座が設置され、新生児医療にかかわる産科及び小児科の医師の確保・育成に努めております。これにより、産科医、小児科医の不足が解消されるものと確信しています。また、病院内にシミュレーションセンターが開設され、高機能シミュレーターを活用した研修体制ができあがりました。シミュレーターとは医学実習用マネキンです。人の体そっくりに作られていて、医学・看護学実習や指導を実地に近い形で行えます。これに対しても静岡県地域医療再生計画に基づいて、県から補助を受けております。

病院長 瀧川 雅浩



現在、平成25年夏の完成を目指し、外来棟の耐震構造の強化と建物改修工事が進んでおります。昨年12月末には、仮設外来棟での診療が終了し、一部を除き、新しくできあがった診察室、検査室で診療を受けられるようになりました。改築前の外来と比べてきれいで、清潔感あふれ、広々としており、患者さんには喜んでいただけるものと思っております。一方で、日々工事現場が変わると言う事態が発生しております。サービスの低下を最小限に抑えるべく努力はしていますが、患者さん、職員の皆さんには、多面で、ご迷惑をおかけいたしております。なにとぞ、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。そして、新しい外来棟の完成を楽しみにお待ちしております。

医療はチーム医療が基本です。浜松医科大学医学部附属病院は極めてチームワークのよい病院です。病院全体がひとつのチームとなって仕事に励み、一人一人の患者さんに最良の医療を提供するよう、最大限の努力をいたします。

地震防災訓練が実施されました

平成24年10月16日（火）東海地震の発生（想定：駿河湾南方沖 マグニチュード8.4 震度7）を想定して地震防災訓練を実施しました。

今回の訓練では、教職員及び学生が参加し、「緊急地震速報」の受信を受け、全館放送の後、次の訓練を実施しました。

- ①緊急地震速報の受信と地震発生時において、職員、学生、患者等の安全を確保するために適切な行動をとる訓練
- ②教職員は、発災後の各職域における初動体勢の実施、災害対策本部等の設置、自衛消防隊による二次災害防止のための訓練
- ③学生は、安否確認訓練、避難誘導訓練及び傷病者搬送訓練
- ④その他、非常トイレ組立訓練、発電機取扱訓練
訓練終了後、中村学長及び浜松市東消防署より

講評をいただきました。

今回の訓練により、自らの身の安全を確保しつつ、速やかに防災体制に移行するという一連の対応行動を身に付け、改めて防災に関する意識を高めることとなりました。

訓練に参加された皆様ご苦労さまでした。

医事課



▲病院災害対策室での報告訓練

新任医師の紹介

小児科学 准教授 小児科 副科長 福田 冬季子



平成24年9月1日付けで浜松医科大学小児科に赴任いたしました。

私は、平成元年に富山医科薬科大学（現富山大学）を卒業、同年に、故郷の静岡県に戻り、浜松医科大学小児科にて研修を開始しました。大学病院や市中病院で小児科全般を研修し、東京女子医科大学で小児神経学を研修した後、浜松市発達医療総合福祉センターや自治医科大学にて小児神経の分野を専門として診療を続けて参りました。分野として小児神経とオーバーラップする部分が多いのですが、中枢神経や筋症状が生じる疾患が多い先天代謝性疾患も専門にしています。

小児神経疾患（筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、重症筋無力症、てんかん、自閉症、精神遅滞、注意欠陥多動性障害、脳症、髄膜炎など）と先天代謝性疾患の診療に携わる一方で、米国のNational Institutes of Health (NIH)での3年余の研究生活を含め、代謝性ミオパチー（特にPompe病とその他の筋型糖原病）と肝型糖原病の病態研究や診断法の開発をテーマに研究をしてきました。また、発達障害の診断や薬物療法を含めた対応に

ついても研究テーマとしております。

医療の進歩は目覚ましく、この20年ほどの間にも色々な変化がありました。例えば、困難であった多くの疾患の診断が末梢血のDNA検査で可能になり、鉄製の重量のある陰圧式体外式呼吸器はコンパクトな在宅呼吸器に代わり、根本的治療法がなかったいくつかの先天代謝性疾患では酵素補充療法が可能になるなど、枚挙にいとまがありません。しかしながら、私が専門とする領域では、疾患の原因が不明である、または、長期的に病気とお付き合いをする必要があることも少なからずあります。一人一人の患者さんと丁寧に関わり、疾患の原因究明や、よりよい治療を目指して参りたいと思います。

この度の赴任で、何人かの患者さんとお母様に約10年ぶりに再会することができました。再び浜松の地で小児医療に携わる機会を与えられたことに感謝し、一層の努力をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

消防訓練が実施されました

平成24年11月20日（火）病院病棟3階東357号室からの火災発生を想定して消防訓練を実施しました。

病院においては、年2回の消防訓練（昼間及び夜間を想定した訓練）が消防法で義務づけられているため実施するもので、今回の訓練では、火災発生における通報連絡、初期消火、避難誘導等の諸訓練を実施し、消防に対する意識の高揚と、職員並びに病院の入院及び外来患者の安全を図ることを目的に、教職員が参加し次の訓練を実施しました。

- ①自衛消防隊設置訓練（災害対策本部等の設置）
- ②通報訓練（119番通報、学内放送連絡、災害対策本部等への状況報告等）
- ③消火訓練（消火器及び屋内消火栓を使用した初期消火）
- ④避難誘導訓練（模擬患者の避難誘導）

訓練終了後、中村学長及び浜松市東消防署より講評をいただきました。

今回の訓練により、速やかに防火体制に移行するという一連の対応行動を身に付け、改めて防火に関する意識を高めることとなりました。

訓練に参加された皆様ご苦労さまでした。

医事課



▲消火器による初期消火訓練



最新の角膜内皮移植について

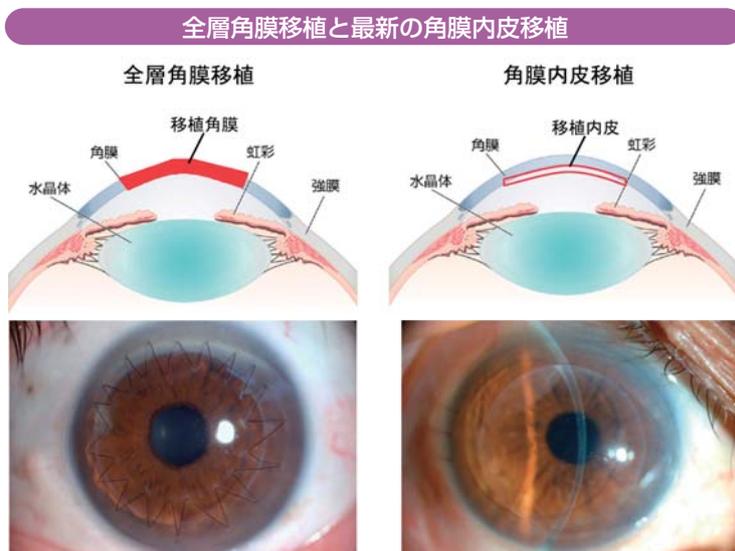
眼科 病院准教授 浅井 竜彦

角膜（黒目）には透明なレンズとしての役割と眼球の壁としての2つの役割があります。こうした働きが損なわれ、目薬など保存的な治療では治すことができないと判断されるとき角膜移植が必要になります。具体的には、角膜が様々な理由で混濁した時や歪んで乱視が強くなり正しく光を屈折しない状態、あるいは角膜に穴が空いてしまった場合の主に3つが考えられます。角膜の構造は目の表面から内側に向かって「上皮」、「実質」、「内皮」の3層に大別されます。一般に角膜移植と言うと、この3層全てを移植する全層角膜移植の事を示す場合がほとんどでした。

全層角膜移植は約100年の歴史があり、最も古くから行われている手術の一つです。従って、手術方法や手術後の管理についても実績があり、術後の視力に対する効果も確実なため角膜移植の中心を占めていました。しかし、最近では技術の進歩にともなって角膜の悪い部分だけ取り替える角膜パーツ移植の時代になってきています。現在の角膜移植は大きく分けると、全層を移植する「全層角膜移植」、内皮から外側の上皮と実質を移植する「層状角膜移植」、そして「角膜内皮移植」の3

通りの手術方法があります。全層角膜移植は主に内皮が障害され角膜全体に混濁が及んでいる場合に行われますが、数年前から内皮のみに障害がある場合は状況によって角膜内皮移植が可能になってきました。

この手術は角膜の周辺部に空けた約数ミリの創口から患者さんの内皮層のみを取り除き、アイバンクから提供されたドナー角膜の内皮層のみを眼内に引き込んで移植する方法です。引き込んだドナー角膜の内皮は、眼の中に空気を注入して膨らませて、その浮力を利用することで移植したドナー角膜内皮を患者さんの角膜と接着させます。全層角膜移植や層状角膜移植では角膜の縫合に髪の毛よりも細いナイロンの糸で慎重に縫合しますが、この内皮移植では移植した角膜を全く縫合せずに手術を終えることができるため、早期より視力改善効果が得られ、移植術後に乱視が軽減し、眼球の強度も保たれるため外傷にも強いという大きな利点があります。もちろん全ての患者さんにこの手術が行える訳ではありませんが、これまでの全層角膜移植に比べると視機能の点からも今後の発展が更に期待されています。浜松医科大学眼科においても、2010年から角膜内皮移植を導入しており、今後も積極的に角膜内皮移植を推進していきたいと考えています。





「带状疱疹と带状疱疹後神経痛」

麻酔・蘇生学講座 助教 谷口 美づき
教授 佐藤 重仁

带状疱疹は、四肢、体幹、顔面に、赤い斑点と水疱が帯状に現れる疾患です（図1）。発疹は、通常左右どちらか一方に現れます。水痘（水ぼうそう）に罹ったことのある人なら誰でも、带状疱疹になる可能性があります。水痘が治った後も、原因ウイルス（水痘带状疱疹ウイルス）は神経の近くに潜伏しています。疲れやストレス、加齢などにより免疫力が低下すると、ウイルスが再活性化し带状疱疹を発症します。

带状疱疹は、数日間皮膚に痛みや痒み「前駆痛」が続き、同じ場所に発疹が出現します（痛みが後発することもあります）。発疹は次第に集まり、水疱を形成して、約2週間後にはかさぶたになり、3週間で色素沈着を残して発疹は治ります。この間、皮膚の炎症による痛み「急性带状疱疹痛」が続きます。

皮膚症状が治癒すると、痛みも消失することが一般的ですが、その後も慢性的な痛みが続くことがあります。これは、ウイルスの再活性化により神経に傷がつき、「带状疱疹後神経痛」が発症するためです。「皮膚症状が重症」「触るだけで痛み（アロデニア）がある」「高齢者」「免疫力が

低下している人」は、带状疱疹後神経痛が残る可能性が高いです。

「急性带状疱疹痛」と「带状疱疹後神経痛」は発症の仕組みや治療法が異なります。急性期の带状疱疹には、ウイルスの増殖を抑え重症化を防止するために抗ウイルス薬を投与するとともに、皮膚の炎症を抑える消炎鎮痛薬を使用します。一方、带状疱疹後神経痛には、消炎鎮痛薬は効果がないので漫然と内服を続けるべきではありません。带状疱疹後神経痛は、神経ブロックや、抗うつ薬、抗てんかん薬、抗不整脈薬、医療用麻薬などの内服、局所麻酔薬を含有した軟膏、理学療法などにより治療を行います。带状疱疹後神経痛は難治性です。带状疱疹では、早期から痛みの治療を開始し、带状疱疹後神経痛の発症を防止することが重要となります。带状疱疹後神経痛を発症した場合、痛みを完全にとることは難しいので、「痛みをある程度コントロールして、うまく付き合う」ことを目標として治療を行います。

痛みの治療は、当院では「麻酔科蘇生科」外来で行っています。痛みがとても強い場合には、入院して集中的に治療を行わなければならない場合もあります。带状疱疹に伴う痛みのある方は、なるべく早い時期に麻酔科蘇生科外来を受診することをお勧めします。



図1. 右背部から腹部にかけて帯状に発疹がみられます。背中に硬膜外カテーテルといわれる細いチューブを挿入し、持続的に神経ブロックを行って痛みの治療を行っています。

ポットマムが贈呈されました

平成24年10月10日（水）庄内中学校からポットマム（15鉢）の寄贈を受けました。

このポットマムは、庄内中学校生徒が7月頃に植え付け（800鉢）、夏休み中も交代で水遣りを行い、丹精こめて育てたものです。

当日は、瀧川病院長が受け取り、お礼の言葉をお掛けしました。

庄内中学校生徒の皆様ありがとうございました。

医事課



市民公開講座

「ここまで進んだウイルス肝炎治療」が行われました

9月15日（土）臨床講義棟小講義室において、市民公開講座「ここまで進んだウイルス肝炎治療」（主催：浜松市、静岡県肝疾患連携拠点病院、浜松医科大学医学部附属病院）が開催されました。

講演会は、小林 良正先生（本院肝臓内科長）による司会進行で、講演1：影山 富士人先生（浜松医療センター内視鏡科長）による「B型肝炎の診断と最新治療」、講演2：長澤 正通先生（聖隷浜松病院肝臓内科部長）による「C型肝炎の診断と最新治療」、講演3：小林 良正先生による「肝臓病手帳の紹介」という演題で講話を行いました。

会場には約60名の市民及び医療関係者が集まり、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。

講師の皆様ありがとうございました。

医事課



左から影山 富士人講師 及び 長澤 正通講師

「保険診療講演会」が行われました

11月6日（火）多目的ホールにおいて、保険診療講演会が開催されました。

講演会は、小林 利彦先生（本院医療福祉支援センター長）による司会進行で、富永 安裕講師（厚生労働省東海北陸厚生局静岡事務所 指導課長）による「保険診療の理解のために」という演題で講話を行いました。

会場には約130名の本学関係者（医師、看護師、薬剤師及び事務職員等）が集まり、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。 医事課



富永 安裕講師

講演会「クリニカルパスの電子化の手順」が行われました

11月26日（月）多目的ホールにおいて、講演会「クリニカルパスの電子化の手順 - 阪大病院



藤井 歩美講師

の事例から-」が開催されました。

講演会は、小林 利彦先生（本院医療福祉支援センター長）による司会進行で、藤井 歩美講師（大阪大学医学部附属病院医療情報部）による講話を行いました。

会場には約90名の本学関係者（医師、看護師、事務職員等）が集まり、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。

また、講演終了後の質疑応答では、活発な意見交換が行われました。 医事課

「医療安全講演会」が行われました

11月30日（金）臨床講義棟大講義室において、平成24年度 第2回「医療安全講演会」が開催されました。

講演会は、竹下 明裕先生（本院輸血・細胞治療部長）による司会進行、座長 佐藤重仁先生（本学麻酔・蘇生学 教授）による講師紹介の後、稲田 英一講師（順天堂大学医学部附属病院 順天堂医院 副院長）による「危機的出血への対応ガイドラインと今後の方向性」という演題で講話を行いました。

会場には約130名の本学関係者（医師、看護師

等）が集まり、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。 医事課



稲田 英一講師

外来診療日一覧

H25.1.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～ 2時 専門外来

休診日 土曜日及び日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

○：午前
△：午後
◎：午前・午後
◆：予約のみ

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付 435-2632											
総合内科 初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第一内科 消化器内科	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	
腎臓内科	○	○	○		○	○	○	○		○	
神経内科	○	○	○		◆	○	○	○		◆	
第二内科 肝臓内科	○	○		○	○	○	○	◆	○	○	
呼吸器内科	○	○		○	○	○	○		○	○	
内分泌・代謝内科	○	○		○	○	○	○		○	○	
第三内科 血液内科	○	◆	○	○	○	○	◆	○	○	○	
免疫・リウマチ内科	○		○	○	◆	○		○	○	◆	
臨床薬理内科	○			○		○			○		要問い合わせ
循環器内科	○	◆	◎	○	○	○	◆	◎	○	○	◎要問い合わせ
ペースメーカー外来											予約のみ、要問い合わせ
ピロリ菌外来（自費診療）	◆					◆					
精神科神経科 受付 435-2635											
初診・再診	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
専門外来 森田療法								△			
児童思春期		○					○				
摂食障害外来								△			
認知療法外来									○		
デイケア							◎		◎	◎	
外科 受付 435-2641											
第一外科 呼吸器外科			◆					○		○	
小児外科		△					△				
一般外科（内視鏡）	○		○		○	○		○		○	
乳腺外科	○	○			○	○	○			○	
心臓血管外科	◆		◆		◆	○		○		◆	
外科 受付 435-2642											
第二外科 上部消化管外科			○					○			
下部消化管外科	○					○					
肝胆膵外科					○					○	
血管外科		○					○				
緩和ケア外来	◆	◆			◆	◆	◆			◆	
脳神経外科 受付 435-2644											
初診・再診	○	○	○	○	○		◆		◆	◆	
整形外科 受付 435-2647											
初診・再診	○		○	◆	○	○		○	◆	○	
専門外来 教授外来（脊椎）	◆			◆		◆			◆		
骨粗鬆症				◆					◆		
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍			◆					◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
皮膚科 受付 435-2650											
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
専門外来 乾癬外来	○	○		○	○	○	○		○	○	
アトピー外来	○		○			○		○			
光線過敏症外来		○					○				診察日は、奇数月の第4週のみ
脱毛症外来	◆					◆					
化学療法スキンケア外来		○		○			○		○		

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
泌尿器科 受付 435-2653												
初診・再診	○	○	○	○			○	○	○			
専門外来 腎移植外来		◆	※○	※1○			◆	※○	※1○		※第4週は休診 ※1 第2週は休診 ◆第4週の午後のみ	
結石外来		○		○			○		○			
排尿障害外来		○					○		○			
不妊症外来	◆				◆	◆				◆	月曜日第2週は休診	
前立腺密封小線源外来		○					○					
小児科 受付 435-2638												
初診・再診	○	○		○	○	○	○		○	○		
専門外来 小児遺伝		◆					◆				午後の診察は、 全て予約制	
内分泌		◆			◆		◆			◆		
心臓				◆	◆				◆	◆		
血液									◆	◆		
免疫・アレルギー	◆					◆			◆	◆		
神経		◆		◆			◆		◆			要問い合わせ
腎臓				◆					◆			
新生児フォローアップ							◆			◆		
乳児検診	◆					◆						
眼科 受付 435-2656												
初診・再診	○	○※	○	○	○	○		○	○	○	※院外からの紹介のみ	
専門外来 網膜専門外来						△					診察日は、第4週のみ	
斜視・弱視外来								◆				
ロービジョン										◆		
耳鼻咽喉科 受付 435-2659												
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
専門外来 腫瘍外来	○					○						
耳外来				○					○			
めまい外来				◆					◆			
耳鳴外来		○					○					
難聴外来・人工内耳外来		○					○					
睡眠時無呼吸・いびき外来					○					○		
顔面神経外来					○					○		
鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆			
産科婦人科 受付 435-2662											女性医師ご希望の方はお申し出ください	
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
専門外来 婦人科外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
産科外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
腹腔鏡外来		◆					◆					
光療法外来			◆					◆				
母親学級							◆				予約制	
女性漢方外来		◆					◆				診察日は、第1、2、4週のみ	
A R T室 435-2664												
不妊外来						◆	◆		◆	◆		
放射線科 受付 435-2665												
放射線治療外来	○	○	○	○	○	◆	◆	◆	◆	◆		
アンギオ外来		○		○			○		○			
麻酔科蘇生科 受付 435-2668												
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
リハビリテーション科 受付 435-2747												
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
形成外科 受付 435-2496												
初診・再診	○	○	○	○	○	○◆	○◆	○◆	○	○	◆午後	
歯科口腔外科 受付 435-2673												
初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
専門外来 唇顎口蓋裂外来			○					○) 専門外来の診察日は不定 期のため、歯科口腔外科 外来受付にお問い合わせ ください	
インプラント外来			○					○				
顎補綴			○					○				
矯正歯科					○					○		

ハッピードールプロジェクトが浜松にやってきた

平成24年10月30日（火）ハッピードールプロジェクトが本院に来院し、人形作りを行いました。

ハッピードールプロジェクトは、全国の病院を巡回し、人形作りを体験させるアートプロジェク

トを主催するもので、当日は、病棟4階 デイルームに小児科の入院患者、付添者並びに病院スタッフが集まり、楽しいひと時を過ごしました。

ハッピードールプロジェクトの皆様ありがとうございました。 医事課



クリスマスイルミネーションを実施しました

クリスマスイルミネーションを12月3日～6日の期間において、病棟2階エントランスホール（点灯時間9～22時）及び外来棟・病棟中庭（点灯時間16～22時）の2か所に彩りました。

このクリスマスイルミネーションは、昨年度から実施しており、今年度のイルミネーション作品

は、本院の患者さん及び利用者に対してのサービスの向上を趣旨として、この趣旨に無償賛同していただいた市内の協賛業者3社（株門田電話工業所、セルコ株及び株パレックス）と看護部及び施設課による合作品となりました。 施設課



▲外来棟・病棟中庭



▲病棟2階エントランスホール

図書室が移転し業務を再開しました



平成24年11月1日（木）外来棟改修工事に伴い閉鎖していた図書室が、外来棟3階（院内学級「たんぽぽ学級」）隣に移転し、業務を再開しました。

図書室には、専門書、闘病記、小説、エッセイ、絵本などを備え、インターネットの閲覧もできます。

業務時間は、平日 9:00～16:00（昼休み休憩時間12:00～13:00を除く。）です。

どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

皆様のお越しをお待ちしています。

医事課



▲図書室スタッフ



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。

病院広報 **はんだ山の風** 第10号 平成25年1月発行

発行／浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会 〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課) Hpアドレス/<http://www.hama-med.ac.jp/>